



学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ
2024年度 Digital Business Syllabus

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ITビジネス演習 II（TDB127）	配当学年	2
講義名（コード）	ITビジネス演習 II（TDB127）	単位数	2
対象学科	グローバルビジネス	時間数	30
対象コース	デジタルビジネス	講義期間	秋
専攻		履修区分	必修
授業担当者	居山・佐藤・特別講師	授業形態	講義
成績評価教員	居山・佐藤・特別講師	実務者教員	
実務者教員特記欄			

2. 本授業科目の概要

目的（位置づけ）	いくつかの企業が現在取り組んでいるビジネスモデルやDXについて実践的な事例研究をすることを通して、DXが企業にもたらす価値や課題を習得する
到達目標	検討した事例についての応用DXアイデアを考え、その提案をプレゼンテーションできるようになる。
全体の内容と概要	連携企業の協力の元で行われるworkshop中心の授業
授業時間外の学修	登場する連携企業について各自の事前調査を奨励 日本の連携企業の事例研究をヒントとして、類似例などを海外で探すリサーチワーク
履修上の注意事項	
特記事項	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	講師	授業内容
1	Facilitator	社会の中でのDXを理解し、将来スコープを描く Smart City Projectへの取り組みを導入、今後期の授業の目的を
2	Johnson Controls	Johnson Controls 会社概要 Building System
3	Johnson Controls	Building SystemでのDX事例
4	Johnson Controls Facilitator	Building SystemでのDXの今後についてワークショップ 学生からの質問と提言
5	Facilitator	用途/市場での位置づけ
6	フォークオリア	フォークオリアの会社概要、ソリューション事例 会津ラボの取り組み
7	フォークオリア	政府のSociety5.1構想 Smart City会津若松市の事例
8	フォークオリア	「Smart City 私の町プロジェクト」に取り組むためのワークショ 学生との質問応答と議論 課題提示:世界のSmart City事例の英語記事を参照して自分が 私の町
9	Facilitator	Smart Cityプロジェクトに取り組む際の要綱議論とまとめ、 課題提出指示、次回に向けた指導
10	Smart City Institute Japan	Smart City 世界事例
11	ヘッドウォータース 篠田代表	会社概要 AIとは何か、定義や歴史
12	ヘッドウォータース 篠田代表	AIの社会実装事例 ヘッドウォータースの事例
13	ヘッドウォータース篠田代表	AIを活かす未来について ワークショップ
14	Facilitator	まとめ・Presentation 評価
15	Facilitator	AIの社会実装事例、各自世界事例英語記事をレポート、全体議 「Smart City 私の町プロジェクト」準備ワークショップ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	Neural Network Consoleの定額契約?
備考	